

実践研究論文の投稿のお願い

『臨床心理学』誌の投稿欄は、臨床心理学における実践研究の発展を目指しています。一人でも多くの臨床家が研究活動に関わり、対象や臨床現場に合った多様な研究方法が開発・発展され、研究の質が高まることで、臨床心理学における「エビデンス」について活発な議論が展開されることを望んでいます。そして、研究から得られた知見が臨床家だけでなく、対人援助に関わる人たちの役に立ち、そして政策にも影響を与えるように社会的な有用性をもつことがさらに大きな目標になります。本誌投稿欄では、読者とともに臨床心理学の将来を作っていくための場となるように、数多くの優れた研究と実践の取り組みを紹介していきます。

本誌投稿欄では、臨床心理学の実践活動に関わる論文の投稿を受け付けています。実践研究という場合、実践の場である臨床現場で集めたデータを対象としていること、実践活動そのものを対象としていること、実践活動に役立つ基礎的研究などを広く含みます。また、臨床心理学的介入の効果、プロセス、実践家の訓練と職業的成長、心理的支援活動のあり方など、臨床心理学実践のすべての側面を含みます。

論文は、以下の5区分の種別を対象とします。

論文種別	規定枚数
①原著論文	40 枚
②理論・研究法論文	40 枚
③系統的事例研究論文	40 枚
④展望・レビュー論文	40 枚
⑤資料論文	20 枚

①「原著論文」と⑤「資料論文」は、系統的な方法に基づいた研究論文が対象となります。明確な研究計画を立てたうえで、心理学の研究方法に沿って実施された研究に基づいた論文です。新たに、臨床理論および研究方法を紹介する、②「理論・研究法論文」も投稿の対象として加えました。ここには、新たな臨床概念、介入技法、研究方法、訓練方法の紹介、論争となるトピックに関する検討が含まれます。理論家、臨床家、研究者、訓練者に刺激を与える実践と関連するテーマに関して具体例を通して解説する論文を広く含みます。④「展望・レビュー論文」は、テーマとなる事柄に関して、幅広く系統的な先行研究のレビューに基づいて論を展開し、重要な研究領域や臨床的問題を具体的に示すことが期待されます。

③「系統的事例研究論文」については、単なる実施事例の報告ではなく、以下の基準を満たしていることが必要です。

- ①当該事例が選ばれた理由・意義が明確である、新たな知見を提供する、これまでの通説の反証となる、特異な事例として注目に値する、事例研究以外の方法では接近できない（または事例研究法によってはじめて接近が可能になる）、などの根拠が明確である。
- ②適切な先行研究のレビューがなされており、研究の背景が明確に示される。
- ③データ収集および分析が系統的な方法に導かれており、その分析プロセスに関する信憑性が示される。
- ④できる限り、クライアントの改善に関して客観的な指標を示す。

本誌投稿欄は、厳格な査読システムをとっています。査読委員長または査読副委員長が、投稿論文のテーマおよび方法からふさわしい査読者2名を指名し、それぞれが独立して査読を行います。査読者は、査読委員およびその分野において顕著な研究業績をもつ研究者に依頼します。投稿者の氏名、所属に関する情報は排除し、匿名性を維持し、独立性があり、公平で迅速な査読審査を目指しています。

投稿論文で発表される研究は、投稿者の所属団体の倫理規定に基づいて、協力者・参加者のプライバシーと人権の保護に十分に配慮したうえで実施されたことを示してください。所属機関または研究実施機関において倫理審査、またはそれに代わる審査を受け、承認を受けていることを原則とします。

本誌は、第9巻第1号より、基礎的な研究に加えて、臨床心理学にとどまらず、教育、発達実践、社会実践も含めた「従来の慣習にとらわれない発想」の論文の募集を始めました。このたび、より多くの方々から投稿していただけるように、さらに投稿論文の幅を広げました。世界的にエビデンスを重視する動きがあるなかで、さまざまな研究方法の可能性を検討し、研究対象も広げていくことが、日本においても急務です。そのために日本の実践家や研究者が、成果を発表する場所を作り、活発に議論できることを祈念しております。

(査読委員長：岩壁 茂) (2017年3月10日改訂)